

昨年9月から消費者庁主導で表示規制ガイドラインまとめに向かう

特定保健用食品市場を調査

10年市場見込

全体 3,270億円、3年連続マイナス成長の中、高血圧予防・コレステロール値改善の2分野は好調
 高血圧予防分野 148億円 前年比8.8%増 発売3年の胡麻麦茶好調が牽引
 コレステロール値改善分野 161億円 前年比1.9%増 健康油が好調に

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、今年4月から6月にかけて、特定保健用食品(以下トクホ)の市場動向を調査した。その結果を報告書「特定保健用食品市場 2010」にまとめた。

この調査では、トクホ市場の動向と参入企業の展開状況を調査・分析することにより、市場の実態と今後のポテンシャルや課題を明らかにした。

05年の制度改正では、新たに審査基準を緩和し、疾病リスクの低減表示を認めるトクホ、科学的根拠が蓄積されているため規格基準に基づき許可するトクホ、科学的根拠レベルには達しないが一定の有効性を確認できる条件付きトクホの3つを創設した。

5月末現在までの941商品の許可結果では、従来のトクホ894商品に加えて、疾病リスク低減表示トクホ11商品が承認されており、森永乳業「カルシウムの達人」、マルハニチロ食品「マジックカットフィッシュソーセージCaトクホ」「カルシウム育ち ちくわ」、日本水産「エコクリップ おさかなのソーセージ」などが挙げられる。規格基準型は35商品で、カネボウ食品「朝の食物繊維」、日田天領水「日田天領水食物繊維入りのお茶」、ブルボン「ミルクココア繊維習慣」、マンナンライフ「クラッシュタイプの蒟蒻畑ライト」などが挙げられ、そして条件付きは、日本サプリメント「TGバランスつぶタイプ」だけである。

今回はこの疾病リスク低減表示、規格基準タイプ、条件付き特定保健用食品の状況に焦点を当てて市場を詳細に分析した。

<調査結果の概要>

特定保健用食品効能分野別市場推移

効能分野	09年	08年比	10年見込	09年比
整腸効果	1,692億円	98.9%	1,667億円	98.5%
中性脂肪値改善	734億円	97.3%	659億円	89.8%
虫歯予防	358億円	91.6%	326億円	91.1%
血糖値改善	182億円	102.8%	183億円	100.5%
コレステロール値改善	158億円	81.4%	161億円	101.9%
高血圧予防	136億円	107.9%	148億円	108.8%
ミネラル吸収	142億円	152.7%	126億円	88.7%
合計	3,402億円	98.8%	3,270億円	96.1%

09年の特定保健用食品市場は3,402億円、08年比98.8%と2年連続して前年割れとなった。花王「エコナ」の販売自粛や、ドリンク類の発売2年目の失速、ガムの非トクホへの需要シフトの影響が大きい。一方で、フィッシュソーセージへの参入が相次いだり、健康油では花王「エコナ」からの需要の取り込みも見られる。

09年は血糖値改善市場や高血圧予防市場、ミネラル吸収市場が拡大したが、整腸効果、中性脂肪値改善、コレステロール値改善などの市場が縮小した。市場全体は、08年以降縮小が続いている。

09年9月からトクホなど保健機能食品制度に関する業務は消費者庁で行うこととなり、同庁は「健康食品の表示に関する検討会」を立ち上げて、トクホなどの表示制度を含め、健康食品に関する表示・広告の課題について検討

を進め、新しい方向性をまとめた。今後速やかに具体施策作りに着手する。

05年の制度改正で展開が可能となった新たな3種のトクホ領域では、08年に森永乳業が「カルシウムの達人」を発売して、カルシウムによる疾病リスク低減表示トクホの市場を形成した。また同年にはマルハニチロ食品、日本水産からフィッシュソーセージが投入され、疾病リスク低減表示トクホの販売規模は72億円に拡大した。

一方、10年3月にマンナンライフは従来展開してきた「クラッシュタイプの蒟蒻畑ライト」で規格基準型のトクホ表示を開始し、注力度の高い展開もあって、規格基準型の販売が36億円まで高まる見通しである。

<注目される効能分野>

高血圧予防市場（表示許可 120商品）

09年 136億円（08年比107.9%） 10年見込み 148億円（09年比108.8%）

この市場は1997年にカルピス「アミールS」が登場し拡大したが、03年以降、競合の影響で同商品は縮小した。07年にサントリーグループが「胡麻麦茶」を発売し、この市場は150億円近くまで拡大した。08年にはシェア上位企業の多くが振るわず、市場は大幅に縮小したが、09年には発売3年目のサントリーグループ「胡麻麦茶」が広告でも効果効能を打ち出して販売を強化し、高単価商品ながらも実績を伸ばし、10年も同商品が牽引して市場は拡大すると見込まれる。

また、販売規模は小さいものの、粉末清涼飲料や錠菓など新商品投入も活発で、今後、市場はドリンク類の実績増減に左右されながらも、長期的には高血圧対策が必要なユーザーを着実に開拓して、需要層の増加が期待でき拡大すると予測する。

この市場ではカルピス「アミールS」やヤクルト本社「プレティオ」、サントリーグループ「胡麻麦茶」などのドリンク類が90%程度を占める状況が続いており、09年、10年とサントリーグループが牽引して実績を拡大している。健康食品・サプリメントでは、日本サプリメントの注力度が高く好調に推移し、参入企業の増加もあり、市場におけるウエイトは09年、10年と高まる傾向にある。

コレステロール値改善市場（表示許可 143商品）

09年 158億円（08年比81.4%） 10年見込み 161億円（09年比101.9%）

この市場は、健康油、マヨネーズタイプ調味料、カテキン緑茶、豆乳などの企業が上位を占めている。コレステロール摂取が気になる食用油で商品化された味の素製油（現「J-オイルミルズ」）「健康サララ」が02年に需要を開拓した。更にマヨネーズタイプ調味料も加わって、05年に100億円を超える市場に成長した。08年にはドリンク類で伊藤園「引き締まった味 カテキン緑茶」が一気に販売を伸ばして、この分野は前年を60%も上回り194億円市場となった。09年は販売自粛の花王「エコナ」から健康油需要の取り込みが小規模に留まりこの市場は縮小した。10年は日清オイリオグループ「ヘルシーコレステ」など健康油の増加によってプラスに転じる見込みである。長期的にはこの市場は健康油やマヨネーズタイプ調味料での一定の需要を維持する底堅さが続いており、特にリピートユーザーに支えられて、安定した市場が続く可能性が高い。ドリンク類で伊藤園がLDLコレステロール低下の表示内容を持つ「豊かな香りカテキンほうじ茶」の表示許可を取得し、さらに「カテキンジャスミン茶」を申請中である。これらが発売されると市場が活性化する可能性は高い。清涼飲料の茶系飲料と競合して実績を確保できるかが課題である。

血糖値改善市場（表示許可 145商品）

09年 182億円（08年比102.8%） 10年見込み 183億円（09年比100.8%）

2000年にヤクルト本社「蕃爽麗茶」が市場を開き、02年にカルピス「健茶王」が拡大した。06年以降縮小傾向のまま08年も主力の健康美容食品のドリンク類が低迷して縮小は続いたが、09年に、山崎製パン「モーニングバランス」やキリンビバレッジ「午後の紅茶 ストレートプラス」など新商品が相次いだことや、粉末飲料が好調で市場は再び拡大に転じている。10年も前年投入の新商品が通年販売となることや粉末飲料の好調、通販ルートでの健康食品・サプリメントの好調により、市場はプラスで推移すると見られるが、新商品の投入の有無が市場推移に大きな影響を与えている

この市場では、消費者の低価格志向を受け、一般飲料の茶系飲料が台頭したためトクホの茶系飲料は低迷が続くと見込む。一方で、粉末飲料や健康食品・サプリメントは、ペットボトルを中心とする茶系飲料と比較して剤型の新規性イメージを追い風に好調で、今後この市場における位置付けが向上する可能性が高くなっている。今後、ドリンク類での実績維持は容易ではないと見られるが、ターゲット人口が増加することから日常に取り込みやすい商品

設計をして、粉末飲料や健康食品・サプリメントによる需要の開拓を進めれば、市場は安定的に推移し続けると予測する。

中性脂肪値改善市場（表示許可 68商品）

09年 734億円（08年比97.3%） 10年見込み 659億円（09年比89.8%）

この市場は1999年に花王「エコナ」によって生まれた。03年に日清オイリオグループ「ヘルシーリセット」、花王のドリンク類「ヘルシア」がヒットし、04年に一気に600億円台まで拡大し、05年は反動で減少した。06年はサントリーグループが発売した「黒烏龍茶」によって再び市場は増加に転じ、07年にかけて市場全体で大幅な増加が続いた。しかし、08年には景気低迷によってPBや一般食品の特売などに需要がシフトし、市場全体も減少した。09年には「黒烏龍茶」、「ヘルシア」の2大ドリンクは実績増加となったが、「エコナ」が販売自粛から特定保健用食品承認を返上したことで、09年市場への影響は大きく、市場全体でも大幅な減少となった。

10年は「エコナ」が対象から外れ、更に減少率が拡大する見込みであるが、その他商品はリピートユーザーを主体に安定した実績を維持する商品が多くなっている。

ミネラル吸収市場（表示許可商品 53種）

09年 142億円（08年比152.7%） 10年見込み 126億円（09年比88.7%）

この市場では2000年の「金のつば ほね元気」（ミツカン）の発売や02年の「ミロ」（ネスレ日本）など参入企業の増加から拡大してきたが、2000年代半ばには伸びが鈍化した。08年になると森永乳業「カルシウムの達人」など大人をターゲットとした商品が牽引し、市場は回復傾向に転じた。09年にはマルハニチロ食品、日本水産から既存品を切り替える形で疾病リスク低減表示型の新商品投入が相次ぎ、市場は大幅に拡大し続けた。

10年には日本水産「エコクリップ おさかなのソーセージ」が通年販売となり、サントリーグループも「鉄骨飲料」に再注力しているものの、景気低迷に伴いミネラル吸収訴求のトクホに対する注力度を相対的に低下させるケースもあり、市場は再び縮小すると見られる。

しかし、ミツカン「金のつば ほね元気」が安定的な推移を続けていることや、新商品投入も活発であることから、中長期的には市場は拡大に転じると見られる。

以上

<調査対象>

効能分野

整腸効果(a)オリゴ糖(b)乳酸菌(c)食物繊維 コレステロール値改善 高血圧予防 ミネラル吸収
虫歯予防 血糖値改善 中性脂肪値改善

ケーススタディ

味の素ゼネラルフーズ 大塚製薬 花王 カルピス サンスター サントリーグループ 大正製薬
マルハニチロ食品 森永製菓 森永乳業 ヤクルト本社 ライオン

<調査方法> 富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体などへのヒアリング調査及び関連文献、社内データベースを併用

<調査期間> 2010年4月～6月

資料タイトル : 「特定保健用食品市場 2010」

体 裁 : A4判 186頁

価 格 : 90,000円 (税込み94,500円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部

TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL:03-3664-5811 (代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>